

## 看護学科

## 講義要綱

科目	地域・在宅看護の方法Ⅰ (専門職種連携)	単位数	1単位	開講時期	2年生前期
授業形態	合同学習・演習	時間	10時間(30)	必修区分	必修
担当者	看護師 亀山美穂(8) 佐野可代子(2)				
授業目的	職種の特性を生かし、対象の目標達成、課題解決に向けての方法をともに検討し、多職種協働の実現を可能にする能力を身につける。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各専門職の役割と責務について、専門職間で共有する。</li> <li>2. 専門職種でのコミュニケーション能力を獲得する</li> <li>3. 対象者志向の倫理観を持つ。</li> <li>4. 専門職種で対象者の目標を共有する。</li> <li>5. 対象者の目標達成、ケアの質向上に向けて共に考える。</li> <li>6. 多職種連携・協働に向けての展望をともに語る。</li> </ol>				
授業概要	専門職種である介護福祉士の学生(2年生)との合同学習となります。同一事例をもとに対象の目標や課題、職種連携と専門性を一緒に考えていきます。				
授業方法	合同学習・演習				
授業展開	回数	内容	準備等		
	1	在宅看護における人間関係の基本 対象者の目標達成に向けての多職種連携	佐野可代子		
	2	事例紹介とアセスメント展開	亀山美穂		
	3	アセスメント展開とまとめ			
	4	まとめと準備			
5	ポスターセッション				
履修条件	2年次の講義となりますが、1年次に顔合わせなどの交流を行ったうえでの本項となります。				
評価方法	ポスターセッション パフォーマンス評価等				
テキスト	在宅での療養と介護を支える制度のかしこい使い方 医学と看護社 その他、各自事例から必要と考える教科書や参考書を持参してください。				
参考書					
備考					

## 看護学科

## 講義要綱

科目	地域・在宅看護の方法 I	単位	1 単位	開講時期	2 年前期
授業形態	講義・演習	時間	20時間(30)	必修区分	必修
担当者	家族支援専門看護師 加藤智子(10)、佐野可代子(2) 看護師 亀山美穂(8)				
授業目的	地域・在宅看護の対象である療養者と家族の役割や関係性を理解する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域・在宅看護の対象について理解する</li> <li>2. 本人と家族の役割について理解する</li> <li>3. 本人と家族の役割・関係・影響・変化について理解する</li> <li>4. 医療・看護を必要としている療養者が家族に与える影響と家族が療養者に与える影響を理解する</li> <li>5. 在宅看護の対象を、健康障害をもちながら療養する療養者と家族であり、家族が看護の単位であると理解する</li> </ol>				
授業概要	地域・在宅看護における対象である本人と家族について理解を深めます。本人と家族の役割や影響について、家族看護専門看護師からと、各領域の担当看護師から学びます。				
授業方法	講義・演習				
授業展開	回数	内容			準備等
	1	地域・在宅看護の対象の理解 1) 地域・在宅の対象 2) 家族関係論・役割・影響・変化の理解			亀山美穂
	2	在宅看護における人間関係の基本 1) 人間関係づくり 2) 家族へのアプローチ 在宅看護(訪問看護)における社会保険制度とマナー・介護保険と医療保険・訪問時マナー			加藤智子
	3	様々な対象と家族について理解する 1) 子供と家族			加藤智子
	4	様々な対象と家族について理解する 2) 女性と家族、男性と家族			加藤智子
	5	様々な対象と家族について理解する 3) 成人と家族			加藤智子
	6	様々な対象と家族について理解する 4) 高齢者と家族			加藤智子
	7	様々な対象と家族について理解する 5) 療養者と家族			亀山美穂
	8	様々な対象と家族について理解する 6) 障がい児・者と家族			佐野可代子
	9	家族関係論			亀山美穂

	10	筆記試験	亀山美穂
履修条件	地域・在宅看護概論の履修が終了していること		
評価方法	出席日数 授業態度（演習への参加態度も含む）課題提出状況 パフォーマンス 評価 ポートフォリオ等		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 医学書院 在宅での療養と介護を支える制度のかしこい使い方 医学と看護社 医療福祉総合ガイドブック 医学書院 国民衛生の動向		
参考書	適時、提示します		
備考			

## 看護学科

## 講義要綱

科目	地域・在宅看護の方法Ⅱ	単位	1単位	開講時期	2年後期
授業形態	講義・演習	時間	30時間	必修区分	必修
担当者	看護師 亀山美穂(24) 看護師 漆畑理津子(2) 皮膚・排泄ケア認定看護師 大川瑞江(2) 医師 遠藤博之(2)				
授業目的	対象が望ましい暮らしをするための看護実践について理解する				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域・在宅看護における援助関係の基本を理解する</li> <li>2. 訪問時の態度やマナーが人間関係成立の要因になることを理解する</li> <li>3. 生活支援の方法と技術を理解する</li> <li>4. 地域・在宅看護で医療管理を必要とする人への看護の方法と技術を理解する</li> <li>5. 慢性期、終末期など、健康障害に応じた看護の方法と技術を理解する</li> <li>6. 在宅療養者・家族の生活の質の向上を考え、看護師の果たす役割を学ぶ</li> <li>7. 多職種の方からの講義から、各々の専門性と役割を理解する</li> </ol>				
授業概要	地域・在宅看護で医療管理や専門職との連携や関わりの実践について学ぶ。様々な職種や在宅専用器具などに触れ、地域・在宅における看護の役割を深める。そこから、暮らしの質を支えることと医療的看護について学んでいく。				
授業方法	講義・演習				
	回数	内容	準備等		
授業展開	1	在宅療養者・家族を支えるとは？ ・在宅看護の特徴と地域包括ケアシステム、対象の理解	亀山美穂		
	2	在宅看護（訪問看護）における社会保険制度とマナー ・介護保険と医療保険・訪問時マナー	亀山美穂		
	3	看護ケアマネジメントの実際：事例から訪問看護計画の立案	亀山美穂		
	4	看護ケアプランの計画・立案・演習：生活援助技術のワーク	亀山美穂		
	5				
	6	看護ケアプランの実際・発表	亀山美穂		
	7	医療を必要とする人の看護 ・皮膚の処置を必要としている対象の看護 褥瘡予防ケア・ストーマ管理など	大川瑞江		
	8	在宅における医療処置がある対象の看護 ・在宅中心静脈栄養法	亀山美穂		
	9	医療を必要とする人の看護 ・薬物療法や在宅膀胱留置カテーテルをうけている対象の看護 ・在宅経管栄養法をうけている対象の看護	漆畑理津子		
	10	在宅酸素療法の実際(呼吸療法認定士による) ・在宅酸素療法とNIPPV療法の対象・器具の理解・急時の対応	亀山美穂		
	11	在宅療養者の自立支援の実際 ・福祉用具・住宅環境の活用と実際、福祉用具の製作	亀山美穂		
	12				

	13	在宅での終末期医療・看護について；終末期にある療養者・家族の看護	遠藤博之
	14	在宅での終末期看護：臨死期・死別期にある療養者・家族の看護	亀山美穂
	15	筆記試験	亀山美穂
履修条件	地域・在宅看護論概論・演習・Iを履修していること		
評価方法	出席日数 授業態度（演習への参加態度も含む） 課題提出状況 ポートフォリオ等		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 医学書院 新改訂版 写真でわかる訪問看護アドバンス インターメディカ 在宅での療養と介護を支える制度のかしこい使い方 医学と看護社		
参考書			
備考	8：膀胱留置カテーテルの管理 45：薬剤の管理（麻薬） 68：医療機器の操作・管理（人工呼吸器）		

科目	成人看護の方法Ⅰ（慢性期看護）	単位数	1	開講時期	2年前期
授業形態	講義 演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 玉木 恭子（22）、慢性心不全認定看護師 平岡佐知子（2） 脳卒中リハビリテーション認定看護師 小澤尚子（2）、NICD認定看護師 小川千代子（4）				
授業目的	慢性期の経過と対象の暮らしをアセスメントし、その人らしく暮らせる看護を学ぶ				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>慢性疾患の患者は、生活習慣や障がいを抱かえることがあり、暮らし・生活の行動変容が必要になる。慢性性の病いにより患者が体験する痛みの軌跡を理解する。</li> <li>慢性疾患によって今後続く治療を理解し、患者が病状をコントロールしていくための支援の方法について理解する。</li> <li>患者が退院に向けて疾患や症状を抱えながらも自らヘルスプロモーションができるように、患者に合わせた方法で退院指導を実施する。</li> </ol>				
授業概要	慢性疾患の患者への看護の方法を学ぶ。 前半は講義にて学習する。認定看護師の講義もあり、臨床での看護実践も踏まえ、根拠に基づいた最新の看護を学ぶ。 後半では、グループに分かれ、共同学習を行い慢性期の患者の事例展開とシミュレーション学習を行う。 基礎Ⅱ実習に向け、知識や技術が活用できるように学ぶ。				
授業方法	講義・演習				
授業展開		内容	看護教育の技術項目	担当者	
	1	成人看護の方法導入 慢性期看護総論		玉木 恭子	
	2	糖尿病患者の看護		玉木 恭子	
	3	透析療法患者の看護	4：食事指導	玉木 恭子	
	4	慢性心不全患者の療養の実際と看護	4：食事指導	平岡 佐知子	
	5	リハビリテーションと看護	17：自動・他動運動の援助	小澤 尚子	
	6	難病患者の看護1（ALS患者の看護）	3:食事介助 69:安楽な体位の調整 71:精神的安寧を保つためのケア	小川 千代子	
	7	難病患者の看護2（遷延性意識障害の患者の看護） コミュニケーションが困難な患者との関わり			
	シミュレーション事例（8～14） ①透析療法を受ける患者の看護（医療機器と暮らし） ②脳出血後の後遺症（リハビリテーション） ③糖尿病（セルフケア・アドヒアランス）…③は全員でシミュレーションを行います			玉木 恭子	
15	試験				
履修条件	事前に学習している形態機能学、病態生理学、臨床医学特論の知識を活用できるように復習しておきましょう。				
評価方法	筆記試験、演習・グループワーク評価、				
テキスト	系統看護学講座 成人看護学総論 医学書院（玉木） 系統看護学講座 内分泌・代謝 医学書院（玉木） 系統看護学講座 腎・泌尿器 医学書院（玉木） 系統看護学講座 循環器 医学書院（平岡） 系統看護学講座 脳・神経 医学書院（小澤・小川） 系統看護学講座 運動器 医学書院（小澤） 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護（小澤・小川）				
参考書					
備考					

## 看護学科

## 講義要綱

科目	成人看護の方法Ⅱ（周術期看護）	単位	1	開講時期	2年前期
授業形態	講義	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看教師 木下真理子（26）、皮膚・排泄ケア認定看護師：府川博俊（2）、手術看護認定看護師 杉浦弘明（2）				
授業目的	心身に大きな影響を受ける手術療法に臨む患者が、手術前後を良好に経過でき、その後の生活の再調整が図れる看護を学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 手術療法を受ける患者に起こる、手術や麻酔による侵襲と生体反応、合併症を理解し、術後の回復を支える看護を学ぶ。また、手術部位の創傷管理の実際や、術後の機能障害に対する生活様式の変更への援助を学ぶ。</li> <li>2 術前は、患者が安全に安心して手術を受けられるよう、患者の術式や麻酔に応じた手術前の援助を考える。</li> <li>3 術後は合併症を予防し、早期回復を図るよう、術直後、術後1日目の援助を考える。また、術後回復していく中で、社会復帰に向けた援助を理解する。</li> </ol>				
授業概要	<p>周術期患者への看護の方法を学ぶ。  前半は講義にて学習する。認定看護師の講義もあり、臨床での看護実践も踏まえ、根拠に基づいた最新の看護を学ぶ。  後半は、グループワークなども取り入れ、生体反応、合併症などの知識の理解を深めるたり、周術期にある患者の事例展開（計画・実施）までをシミュレーション学習を取り入れ実践的に学習する。  3年次の成人看護学実習で知識や技術が活用できるように学ぶ。</p>				
授業方法	講義・演習				
授業展開		内容	看護教育の技術項目	担当者	
	1	周術期総論		木下真理子	
	2	術前看護		木下真理子	
	3	術前看護の実際		木下真理子	
	4	術中看護		杉浦 弘明	
	5	術後看護		木下真理子	
	6	術後看護の実際	29:体温調節 30:酸素吸入法の実施 37:ドレーン処置44:点滴静脈内注射管理	木下真理子	
	7	創傷管理の知識	12:ストーマ管理 35:褥瘡ケア 36:創傷処置	府川 博俊	
	8~14	直腸がん、胃がん、子宮体がんなどの事例を用いて、グループワークやシミュレーション学習を行う。		木下真理子	
15	試験				
履修条件	事前に学習している形態機能学、病態生理、臨床医学特論の知識を活用できるように復習しておくこと。				
評価方法	筆記試験、演習・グループワーク評価				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 系統看護学講座 消化器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 女性生殖器 医学書院				
参考文献					
備考					

## 看護学科

## 講義要綱

科目	成人看護の方法Ⅲ（急性期看護）	単位	1	開講時期	2年前期
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 高野 祐志（20）、医師 望月洋一（2）集中ケア認定看護師 望月 誠（2） 救急看護認定看護師 高橋綾子 他（6）				
授業目的	急性な生命の危機状態にある患者の、生命を維持する看護を学び、緊急時に自己の取る行動を考えることができる。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 クリティカルな状態にある対象の特徴を理解する。</li> <li>2 クリティカルな状態における支援の実際を理解する。</li> <li>3 急変した患者に対して、生命を守るためにアセスメントを行い観察の視点を挙げる。さらにその時に必要な行動を起こす。</li> </ol>				
授業概要	急性期の患者への看護の方法を学ぶ。 前半は、講義にて学習する。認定看護師の講義もあり、臨床での看護実践も踏まえ、根拠に基づいた最新の看護を学ぶ。 BLSの知識も学習するので、生活の中で身近に起こった応急処置はできるようにしたい。 後半では、グループに分かれ、共同学習を用いて急性期の患者の事例展開とシミュレーション学習を行う。				
授業方法	講義・演習				
授業展開	内容		看護教育の技術項目	担当者	
	1	急性期看護総論		高野 祐志	
	2	救急医療の特徴と実際		望月 洋一	
	3	急性期における家族看護		高野 祐志	
	4	救急看護の方法			
	5				
	6	生命危機に陥るメカニズムとその対応		高野 祐志	
	7				
	8	急変時の看護・救急看護の実際・実践①			
	9	救急看護の実際・実践②救急看護演習（BLS）	47:緊急時の応援要請 48:1次救命処置	高橋 綾子 救急救命士0B	
	10	救急看護の実際・実践③救急看護演習（BLS）			
	11	集中治療看護		望月 誠	
	12			高野 祐志	
	13	救急看護の実際（シミュレーション事例）			
	14				
15	試験				
履修条件	事前に学習している形態機能学、病態生理学、臨床医学特論の知識を活用できるように復習しておくこと。				
評価方法	課題レポート、筆記試験、授業姿勢・グループワーク評価				
テキスト	系統看護学講座 成人看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 救急看護 医学書院 系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護 医学書院 系統看護学講座 循環器 医学書院				
参考書					
備考	救急看護演習時は動ける服装を準備すること。				

## 看護学科

## 講義要綱

科目	成人看護の方法Ⅳ（がん看護・終末期看護）	単位	1	開講時期	2年後期
授業形態	講義	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 木下真理子（18）、緩和ケア認定看護師 高木陽子（6）、 がん化学療法看護認定看護師 岩科麻見（4）、 がん放射線療法看護認定看護師 杉山美和（2）				
授業目的	成人期の役割を果たしながら、がんと向き合いその人らしく生きられる看護を学ぶ。 がん治療の理解を深め、病理、抗がん剤治療、ホルモン剤治療、放射線治療の基本を理解し、治療を受ける患者の基本的な理解ができる。 がんにより患者が人生を終えようとしている時期に、生活の質を保ち、苦痛を少なく、その人にとって良い死を迎えられる看護を学ぶ。 がんを患った成人期の対象はもちろん、本人を取り巻く家族などの状況や背景などを考える。				
到達目標	1 死亡率第1位であるがんに対する主要な治療方法と看護を理解する。 2 終末期医療、緩和ケアの具体的な知識を理解する。 3 仕事や家庭をもちながらがん治療を受ける患者が、継続して社会で活躍できるように看護を実施する。 4 終末期の患者が苦痛を緩和し、その人らしく過ごせる看護を実践する。				
授業概要	がん患者の看護、終末期の看護の方法を学ぶ。 前半は講義で学習する。認定看護師の講義もあり、臨床での看護実践も踏まえ、根拠に基づいた最新の看護を学ぶ。 後半は、グループに分かれ、共同学習を用いてがん患者・終末期の患者の事例展開とシミュレーション学習を行う。				
授業方法	講義・演習				
授業展開	内容	看護教育の技術項目	担当者		
	1 がん看護総論（がんの疫学、がん対策、がん予防、がん検診・乳がんの自己検診、がんサバイバーシップとソーシャルサポート、AYA世代のがん、）		木下真理子		
	2 がん化学療法の看護①	44:点滴静脈内注射の管理 45:薬剤等の管理	岩科 麻見		
	3 がん化学療法の看護②				
	4 がん放射線療法の看護	66:放射線被ばく防止策	杉山 美和		
	5 終末期看護総論	69:安楽な体位の調整 70:安楽の促進・苦痛緩和のためのケア 71:精神的安寧を保つためのケア	高木 陽子		
	6 緩和ケア（疼痛コントロール、スピリチュアルケア）				
	7 臨死期の看護と看取り				
8～14	乳がん、すい臓がん、肺がんなどの事例を用いてグループワークやシミュレーション学習を行う。				
15 試験					
履修条件	事前に学習している形態機能学、病態生理学、臨床医学特論の知識を活かせるよう復習しておくこと。				
評価方法	筆記試験、演習・グループワーク評価				
テキスト	系統看護学講座 別巻 がん看護 医学書院 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 系統看護学講座 別巻 家族看護 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院 系統看護学講座 消化器 医学書院 系統看護学講座 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 女性生殖器 医学書院 系統看護学講座 血液・造血 医学書院				
参考書					
備考					

## 看護学科

## 講義要綱

科目	成人看護の方法Ⅴ(成人臨床看護技術)	単位	1	開講時期	2年前期
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 木下真理子(16) 森 康太(14)				
授業目的	臨床で行われる専門性の高い看護技術を、体験的に学ぶ。 シミュレーション事例や実習の看護実践で修得した技術の知識を活用する。				
到達目標	診療の補助に関連する臨床看護技術を、目的や方法、根拠を明らかにした上で体験する。実施後は振り返りを行い、技術や知識の定着を図る。 技術を演習することで基本的な技術の習得を図る。				
授業概要	シミュレーション事例の時期に合わせ臨床看護技術演習を行うので、シミュレーションの事例をアセスメントするときは、本演習の技術を活用する。 この演習では、実習では実際に体験できない侵襲の高い技術を行うので、積極的に参加して体験してほしい。また、清潔操作などすでに習った知識を必要とするので、予習して演習に望むようにしたい。				
授業方法	講義・演習				
授業展開	内容	看護教育の技術項目		担当者	
	1 酸素吸入・気道内加湿	30:酸素吸入法の実施 31:ネブライザーを用いた気道内加湿		木下	
	2 呼吸法・体位ドレナージ	34:体位ドレナージ			
	3 吸引(口腔・鼻腔、気管)	32:口腔内鼻腔吸引 33:気管内吸引			
	4 創傷処置・ドレイン類の管理	36:創傷処置、 37:ドレイン類の挿入部の処置 61:無菌操作			
	5 心電図	56:検査の介助			
	6 頸部・乳房のフィジカルアセスメント	52:フィジカルアセスメント		森	
	7 脳神経・感覚器のフィジカルアセスメント	ト			
	8 講義:注射法	64:患者の誤認防止策の実施			
	9 演習:皮下注射の実際	41:皮下注射			
	10 演習:静脈内注射①準備	43:静脈路確保			
	11 演習:静脈内注射②実施	43:静脈路確保			
	12 演習:点滴静脈内注射①準備	44:点滴静脈内注射の管理			
	13 演習:点滴静脈内注射②実施			木下	
	14 演習:筋肉内注射	42:筋肉内注射			
15 試験					
履修条件	事前課題がある場合、課題は必須。演習前は基礎実習室の事前準備を行っておくこと。				
評価方法	終了試験				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 写真でわかる臨床看護技術① 本庄恵子 インターメディカ 写真でわかる臨床看護技術② 本庄恵子 インターメディカ				
参考書					
備考					

看護学科 講義要綱

科目	老年看護の方法 I (高齢者の健康生活への援助)	単位	1	開講時期	2年前期
授業形態	講義・演習	時間	30	必修区分	必修
担当者	看護師 今井弓珠(26)、認知症看護認定看護師 釜下佳代子(4)				
授業目的	高齢者の健康生活を維持するための援助として、食事・排泄・活動・休息について具体的に学ぶと共に、加齢に伴う認知症についての知識を深めることで、高齢者が地域で暮らして行くために必要な支援について考える。				
到達目標	老年期にある対象の日常生活力とそれに及ぼす影響を理解し、健康生活への援助について学ぶ。				
授業概要	1年生の基礎看護学で学んだ日常生活援助技術と、老年期にある高齢者の特徴を考えながら、高齢者の生活援助について学びます。				
授業方法	講義・演習 【演習】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・嚥下訓練、とろみ剤の活用</li> <li>・口腔ケア(義歯の着脱・手入れ)</li> <li>・排泄援助(オムツ)</li> <li>・歩行・移動介助(杖歩行)</li> </ul> ・高齢者疑似体験 ・自動他動運動				
授業展開	回	内容	技術項目	担当者	
	1	高齢者の日常生活力アセスメントの視点		今井弓珠	
	2	老化が食生活に及ぼす影響を理解し、生活を整えるための援助① 高齢者の嚥下機能のアセスメント			
	3	老化が食生活に及ぼす影響を理解し、生活を整えるための援助② 嚥下機能の合わせた食形態の工夫 とろみ剤の活用	4: 食事指導 (食形態の工夫)		
	4	老化が食生活に及ぼす影響を理解し、生活を整えるための援助③ 嚥下訓練・義歯の手入れと着脱 口腔ケア	26: 口腔ケア		
	5	高齢者の脱水のリスクと予防			
	6	老化が排泄機能に及ぼす影響を理解し 排泄を整えるための援助① 尿失禁の種類と援助	7: 排泄援助 (オムツ交換)		
	7	老化が排泄機能の及ぼす影響を理解し 排泄を整えるための援助② 便秘予防と排便困難時のケア	11: 摘便		

授業展開	8	腰・膝に痛みがある高齢者の生活援助 ・痛みを増やさない姿勢・動き方 ・杖の活用	14：歩行訓練 17：自動他動運動 65：安全な療養環境の整備	今井弓珠
	9	かゆみがある高齢者の生活援助 ・かゆみの要因とかゆみの影響の理解と援助	20：整容(爪切り)	
	10	生活の活性化を促す援助		
	11	高齢者の健康生活について探求した成果と 援助への提案		
	12	認知症の理解と認知機能評価		釜下佳代子
	13	認知症をもつ高齢者とのコミュニケーション 認知症をもつ高齢者の生活支援		
	14	地域でくらす認知症をもつ高齢者と家族への 社会資源とその活用		
	15	終了試験		
履修条件	1年次に学んだ基礎看護学の知識・技術、老年期の特徴についての知識が基盤になります。既習の知識・技術の振り返り主体的な学習を期待しています。また、高齢者が生活している場面を意識して見つめ、日頃から高齢者に関心を持つ姿勢を期待します。			
評価方法	・筆記試験70点、・課題30点・課題の提出状況 講義・演習を通して高齢者がどんな生活を体験しているのか想像し、高齢者の援助について思ったこと・考えたことを大切にして欲しいと願っています。それを表現する課題を随時出す予定でいます。評価対象となります。 *課題は決められた提出期限内に提出されてはじめて評価対象とし、その上で内容を評価します。講義開始時にルーブリックを示します。			
テキスト	①書名 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾病論	②著者名	③発行所 医学書院 医学書院	
参考書	①書名 国民衛生の動向 健康の地図帳 生活機能からみた老年看護過程 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 根拠がわかる在宅看護技術 第3版	②著者名 大久保昭行 正野逸子	③発行所 (財)厚生統計協会 講談社 医学書院 医学書院 メヂカルフレンド社	
備考	理論・概念 ストレングスモデル、認知症者のパーソン・センタード・ケア ICFモデル 制度 成年後見人制度			

看護学科 講義要綱

科目	老年看護の方法Ⅱ (人生の最終段階にある高齢者の看護)	単位	1	開講時期	2年後期
授業形態	講義・演習	時間	15	必修区分	必修
担当者	看護師 今井弓珠(11)、緩和ケア認定看護師 梶浦やすえ(4)				
授業目的	長期臥床状態・終末期にある高齢者を理解し、自己の高齢者観や死生観に向き合うことで、倫理的判断に基づいた看護を実践するための方法を学ぶ。				
到達目標	人生の最終段階にある高齢者の看護を実践するための方法を学ぶ				
授業概要	人生の最終段階にいる老年期だからこそ、そこでの時間はより生と共に終末を意識します。その人らしく生ききることを意識した看護とは、どのような援助が必要なのか。自己の看護観と共に死生観を意識する機会にもなります。生命の尊厳について真剣に考え学んでいきましょう。文献に出会い探求していく学習は、新たな発見につながります。授業内でも紹介します。				
授業方法	講義・演習 【演習】・安楽な体位の調整 ・安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア ・精神的安寧を保つためのケア ・褥瘡予防ケア				
授業展開	回	内容	技術項目	担当者	
	1	高齢者の死のとりえ方について考える		今井弓珠	
	2	死の迎え方の意向・看取りの意向を尊重した看護	69：安楽な体位の調整 70：安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア		
	3	ポジショニングの工夫・療養環境の調整	35：褥瘡予防ケア		
	4	終末期の身体的な変化 死後のケアとその意味		梶浦やすえ	
	5	遺族を支える援助～グリーフケア～			
	6	人生の最終段階にある高齢者・家族への看護実践の提案		今井弓珠	
	7	看護師として「生命の尊厳」について考える			
8	終了試験				
履修条件	体調管理して意欲的に参加してください。また、自己の人生観や死生観にも向き合う機会となることを期待します。				
評価方法	・筆記試験60点、・確認テストや課題の提出状況40点 既習学習の振り返りの確認テストを実施し、評価対象となります。高齢者に人生グラフを作成してもらい、それを活用して、多様な死生観に向き合う機会とする。				
テキスト	①書名 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾病論 系統看護学講座 専門Ⅰ 看護学概論 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ	②著者名	③発行所 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院		
参考書	①書名 国民衛生の動向	②著者名	③発行所 (財)厚生統計協会		
備考	理論・制度 危機理論(死の受容過程)				

看護学科 講義要綱

科目	老年看護の方法Ⅲ (治療を選択し生活する高齢者の看護)	単位	1	開講時期	2年後期
授業形態	講義・演習	時間	30	必修区分	必修
担当者	看護師 今井弓珠 (28)、看護師 フラピエかおり (2)				
授業目的	老化による生活への影響や治療を受けながら生活を送っている高齢者を想像し、高齢者に必要な看護を学びます。自己の高齢者観も意識しながら学んでいきましょう。				
到達目標	治療を受けながら生活していく高齢者を理解し、看護を実践するための方法を学ぶ。				
授業概要	高齢者の身体変化と高齢者に多い疾患への看護実践への学習を行います。ここでの学びは臨地実習にも活かせる内容です。事例検討やグループワーク・発表と仲間と一緒に看護について考え共有し老年看を深めていきます。				
授業方法	講義・演習 【事例】 ・大腿骨頸部骨折・前立腺肥大症				
授業展開	回	内容	技術項目	担当者	
	1	高齢者の生活と健康障害の特徴の理解 ・既習学習の復習 ・加齢による変化を踏まえた健康障害の特徴		今井弓珠	
	2	老化が治療に及ぼす影響の理解 ・老化が薬物動態に及ぼす影響と看護 ・老化が周手術期に及ぼす影響と看護		フラピエ かおり	
	3	薬物療法を受けながら生活する高齢者の看護 ・老化を踏まえた確実な服薬への援助 ・事例展開	38:経口薬 39:経皮・外用薬	今井弓珠	
	4	手術療法を受ける高齢者の看護 ・術後合併症リスクのアセスメント リハビリテーションを受ける高齢者の看護 ・高齢者のリハビリテーションの特徴			
	5	事例展開に使用する疾患の理解 ・前立腺肥大症について ・大腿骨頸部骨折について			
	6	演習 ・尿道留置カテーテル挿入中の看護 ・股関節の人工骨頭置換術後の患者の看護 ・弾性ストッキングの着脱	13:車椅子での移送 15:移乗介助 16:体位変換・保持		
	7	事例の共有 ・チーム内での共有とペア学生への情報提供			
	8	課題①:手術後の看護計画 ・TUR-P後の体動制限とせん妄予防 ・人工骨頭置換術後の安楽な体位保持	17:自動・他動運動 52:フィジカルアセスメント 66:安全な療養環境の整備(転倒転落外傷予防)		
	9	課題①:手術後の看護計画の実践と申し送り ・TUR-P後の体動制限とせん妄予防 ・人工骨頭置換術後の安楽な体位保持	69:安全な体位の調整 70:安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア		
10	課題②:計画 ・尿道留置カテーテル挿入中の車いす移乗 ・禁忌肢位のある患者の移乗	8:膀胱留置カテーテルの管理 71:精神的安寧を保つためのケア			

授業展開	11	課題②：実践と申し送り ・尿道留置カテーテル挿入中の車いす移乗 ・禁忌肢位のある患者の移乗	17:自動・他動運動 52:フィジカルアセスメント 66:安全な療養環境の整備（転倒転落外傷予防） 69:安全な体位の調整 70:安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア 8:膀胱留置カテーテルの管理 71:精神的安寧を保つためのケア	今井弓珠
	12	課題③：計画 ・膀胱留置カテーテル挿入中の安全な歩行 ・荷重1/2指示の安全な歩行		
	13	課題③：実践と申し送り ・膀胱留置カテーテル挿入中の安全な歩行 ・荷重1/2指示の安全な歩行		
	14	退院支援：計画と実践（パンフレット作成） ・TUR-P後の退院生活を支援する ・股関節人工骨頭置換術後の生活を支援する		
	15	終了試験		
履修条件	・体調を整え、主体的な学習を期待します ・既習の知識を事前学習で振り返って授業に望んでください			
評価方法	・課題の提出状況 ・GWの評価（チームワーク・資料・発表） ・終了試験（60点） *終了試験を受けるにあたり、出席状況に加え、出欠席に関係なく全部のレポートが提出されていることが条件となります。			
テキスト	①書名	②著者名	③発行所	
	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学		医学書院	
	系統看護学講座 専門Ⅱ 腎・泌尿器		医学書院	
	系統看護学講座 専門Ⅱ 運動器		医学書院	
	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾病論		医学書院	
	系統看護学講座 別巻 家族看護学		医学書院	
参考書	①書名	②著者名	③発行所	
備考				

## 看護学科

## 講義要綱

科目	小児看護学概論	単位	1	開講時期	2年前期
授業形態	講義	時間	15	必修区分	必修
担当者	看護師 松本めぐみ				
授業目的	地域に暮らす子どもとその家族を取り巻く環境を理解する。また、社会の動きによる暮らしへの影響を学び、子どもの権利を尊重するための姿勢を学ぶ。				
到達目標	成長・発達過程にあるこどもの特徴を学び、こどもの基本的人権を守る意義を考え、変化する社会の中で小児保健がどのように発展してきたのかを学び、今後の動向を踏まえて看護の役割を考える。				
授業概要	少子高齢化社会の中で、こどもを取り巻く社会は大きく変化しており、母親の育児不安や児童虐待などの問題が生じている。現代社会のこどもを取り巻く環境をふまえ、小児看護の対象であるこどもと家族を理解していく。また、小児期は成長・発達の著しい時期であり、成長・発達に関わる健康問題も多くある。成長・発達の観点からも小児という対象を理解していく。				
授業方法	講義は一方向的にならないように4人組のワークを行いながら進めていきます。				
授業展開	回数	内容			準備等
	1	小児看護学の位置づけ・構成 小児看護の対象			
	2	小児看護の目標と役割 小児と家族の諸統計 こどもと医療			
	3	小児をめぐる法律と政策 小児保健・福祉行政の推移 母子保健			
	4	小児看護における倫理 小児看護の課題			
	5	小児の成長・発達 成長・発達とは、一般原則、 小児各期の特徴			
	6	小児の成長・発達に影響する因子 小児の成長・発達の評価			
	7	小児をめぐる問題（児童虐待）			グループワーク発表
8	終了試験				

履修条件	<p>日頃から自分のこどもの頃を振り返ることや周囲にいるこどもとの関わり、小児についての興味や関心をもって授業に臨んでください。また、メディアや書籍などを活用することによって、講義の内容の理解を深めていく努力をしてほしい。</p> <p>新聞スクラップに小児に関する話題を取り上げてください。</p>
評価方法	<p>出席状況と授業態度 グループワークの状況 終了試験</p>
テキスト	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論/小児臨床看護総論 医学書院 国民衛生の動向 (財)厚生統計協会</p>
参考書	
備考	

科目	小児看護の方法Ⅰ	単位	1	開講時期	2年前期
授業形態	講義・演習・ワーク	時間	30	必修区分	必修
担当者	看護師 井出 見也子				
授業目的	子どもの成長・発達の特徴や、小児を取り巻く環境や様々な問題を知り、こどもが健やかに育つために必要な看護を学ぶ。				
到達目標	子どもの成長・発達の特徴を理解し、日常生活への援助の方法を学ぶ。小児を取り巻く環境や様々な問題をふまえ、こどもが健やかに育つために必要な支援の方法を学ぶ。				
授業概要	小児看護学概論で学んだ、小児の成長発達の特徴をさらに深め、こどもの理解と日常生活の援助、家族への援助を考え、体験をしながら学んでいきます。				
授業方法	演習、ワーク、調理実習は事前準備があります。				
	回数	内容	準備等		
	1	講義オリエンテーション こどものイメージ こどもと絵本 小児の成長・発達の評価			
	2	新生児期の特徴と看護 胎児循環から新生児循環への移行 新生児期の生理的特徴 形態的特徴 母乳栄養と看護 新生児と家族の看護			
	3	乳児の特徴と看護 乳児の形態的特徴、生理的特徴、運動機能、 知的機能、コミュニケーション、情緒・社会的機能と看護			
	4	小児の栄養と離乳食			
	5	幼児の特徴と看護 形態的特徴、生理的特徴、運動機能、知的機能、 コミュニケーションの発達、情緒・社会的機能と看護			

授業展開	6	幼児の生活援助 日常生活動作の自立状況に応じた援助	
	7	離乳食を作ってみよう！	離乳食調理と試食会
	8	乳幼児に予測される事故	グループワーク
	9	子育て支援～静岡市の取り組み～	発表
	10	学童の特徴と看護 自己の学童期を振り返り、学童期の特徴を学ぶ	
	11	遊びの工夫(雨の日に室内で楽しく遊ぶ) 発表会	遊びの工夫発表会
	12	思春期の特徴と看護 第二性徴における生理的变化、知的特徴 思春期の心と看護	
	13	乳幼児の生活援助体験 おんぶ、抱っこ、バギー体験、 更衣、おむつ交換	演習 7 おむつ交換
	14	小児の理解を深めよう！ 新聞スクラップ大発表会	グループワーク
	15	終了試験	
履修条件	<p>日頃、子どもたちと接することがない学生も多いと思いますが、自分の頭の中で具体的にイメージできるようテレビや新聞等の子どもに関する記事を見逃さないようにしていこう。登下校中などに出会う子どもたちの姿に少し注意して観察するようにしてみましょう。また、自分の子ども時代の写真や作成した絵などを見直して、小児期を振り返ってみてください。機会が合ったらご家族に『どんな子どもだったか』自分の子ども時代の話聞いてみよう。</p>		
評価方法	筆記試験70% + レポート30点		
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論/小児臨床看護総論 医学書院		
参考書	国民衛生の動向 (財)厚生統計協会		
備考			

## 看護学科

## 講義要綱

科目	小児看護の方法Ⅱ	単位	1	開講時期	2年後期
授業形態	講義、演習	時間	30	必修区分	後期
担当者	医師 西田 光宏(10) 橋本 伸弘(10) 看護師 松本 めぐみ(10)				
授業目的	小児期に特有な疾患及び治療の実際を理解し、必要な看護を学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 小児の健康障がいの特徴を理解する</li> <li>2 小児に代表的な疾患の病態、症状、診断、検査、治療と看護について理解する</li> <li>3 小児が健康障がいを抱えることで、児や家族に及ぼす影響について考え、看護の具体案を立案する</li> </ol>				
授業概要	小児医療の高度化・多様化に伴い、小児医療の場では、広範囲に及ぶ専門的な知識や技術が必要になります。小児の発達段階に応じて、あるいは、児や家族がおかれている状況に応じて看護実践をしていくことが求められるため、様々な健康障がいとその影響を学び、看護の具体を考えます。				
授業方法	講義、演習				
授業展開	回数	内容	準備等	担当	
	1	代謝性疾患、内分泌疾患 成長ホルモン、低身長		橋本伸弘	
	2	染色体異常 ダウン症候群、プラダーウィリー症候群			
	3	小児の感染症と予防接種 ウイルス感染症、細菌感染症			
	4	小児救急と冬季に流行する感染症 インフルエンザ、ノロウイルス、ロタウイルス、RSウイルス			
	5	血液、造血器疾患、悪性新生物 血友病、紫斑病、白血病、神経芽腫 新生児について			
	6	ネフローゼ症候群 I型糖尿病		西田光弘	
	7	循環器疾患 先天性心疾患、川崎病			
	8	小児のけいれん 熱性けいれん、てんかん、脳性麻痺			
9	小児のアレルギー疾患 気管支喘息、クループ、食物アレルギー				

	10	新生児の疾患 低出生体重児に起こりやすい疾患と問題		
	11	健康障がいを抱えた小児と家族の看護の理解 在宅で療養する小児と家族の看護の理解 ・事例展開と看護計画の立案	事例展開	松本 めぐみ
	12		事例展開	
	13		指導案作成	
	14		指導案の内容について作品作り	
	15		終了試験、作品の発表	
履修条件	講義で話す内容は、実践で役立つ内容を中心としているため、一語一句聞きもらさず集中して欲しい。講師への質問も期待している。小児の看護計画の立案、指導案と作品作りでは、様々な知識を活用して欲しい。多くの書籍から情報を探し、対象に合わせた楽しくなる作品を作りましょう。			
評価方法	筆記試験、課題内容			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論/小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 医学書院			
参考書				
備考				

## 看護学科

## 講義要綱

科目	小児看護の方法Ⅲ	単位	1	開講時期	2年後期
授業形態	講義、演習	時間	30	必修区分	必修
担当者	西澤 浩子(2) 看護師 原 との子(2) 松本めぐみ(26)				
授業目的	あらゆる状況や場における子どもと家族の健康な暮らしを理解し、必要な看護を実践できる能力を養う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 小児の健康障がい、成長発達や日常生活に及ぼす影響を理解する</li> <li>2 小児の健康の状況や疾患の経過に応じた特徴を理解する</li> <li>3 成長発達の妨げを最小限にし、子どもの最善の利益を目指した看護を 実践するために必要な知識を学ぶ</li> <li>4 小児看護特有の看護技術を体験的に学ぶ 【看護師教育の技術項目レベルⅠ】 50:バイタルサインの測定、51:身体計測</li> </ol>				
授業概要	小児看護学概論、小児看護の方法Ⅰ・Ⅱを基盤として成り立っている科目です。既習の知識を総動員し、社会の中で暮らす小児の健やかな成長発達の促進へ向け、必要な看護を実践的に学びます。				
授業方法	講義、演習				
授業展開	回数	内容	準備等	担当	
	1	健康障がい子どもと家族に及ぼす影響 子どもの健康問題と看護の方向性		松本 めぐみ	
	2	子どもにとっての病院環境とその看護 ・外来環境と入院環境 ・外来や入院における子家族の看護			
	3	急性期、慢性期にある子どもの看護 ・感染症に罹患した子どもと家族の看護 ・症状を示す子どもの看護 ・検査や処置を受ける子どもの看護			
	4	地域で暮らす健康や発達に障がいのある子どもと 家族の看護 ・健康や発達に障がいのある子どもと家族の生活 とそのニーズ、社会支援の実際		特定非営利 活動法人 びゅあ 西澤浩子	
	5	在宅療養中の子どもと家族の看護 ・在宅療養中の子どもと家族の特徴 ・小児訪問看護の実際		訪問看護ス テーション あおむし所長 原との子	
	6	手術を受うる子どもと家族の看護 ・プレパレーション			
	7	終末期にある子どもと家族の看護 ・小児の死の概念 ・緩和ケア		松本 めぐみ	

8	救急救命処置の必要な子どもと家族の看護 ・小児の事故		松本 めぐみ
9	ハイリスク新生児と家族の看護 ・ハイリスク新生児の特徴と看護の実際		
10	こころに障がいのある子どもと家族の看護 ・子どもの心の反応とその特徴 ・発達障がいの特徴と支援の方法 ・小児の虐待と看護		
11	小児看護に必要な技術		
12	小児看護に必要な技術 ・身体計測、バイタルサインの測定	演習	
13	小児看護に必要な技術 ・抑制、与薬、輸液の管理	演習	
14	災害をうけた子どもの看護		
15	終了試験		
履修条件	子どもを取り巻く現代社会における、大人の役割について常に考えをもってください。新聞やニュース、身近にいる子どもの生活など、子どもの目線から社会の動きをみつめ、看護の役割を見出していきましょう。		
評価方法	筆記試験、課題レポート		
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論/小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 医学書院		
参考書			
備考			

## 看護学科

## 講義要綱

科目	母性看護学概論	単位数	1	開講時期	2年前期
授業形態	講義	時間	15	必修区分	必修
担当者	看護師 西谷沙紀 (13) 他 (2)				
授業目的	多様な性を理解し、幅広い母性の対象について理解する。また性と生殖に関わる社会の動向を知り、女性を守る法律や施策との繋がりを学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母性看護の主要概念を理解する。</li> <li>2. 母性の対象者、多様な性について理解する。</li> <li>3. 女性を取り巻く社会とその動向を知り、女性を守るための法律、母子保健施策について理解する。</li> <li>4. 「母性とは何か」を考えることで母性看護の役割について表現できる。</li> </ol>				
授業概要	多様化する母性の対象、社会情勢により変化する女性の生涯を理解しながら、「母性とは何か」について考えられるよう講義をすすめます。ワークを通し、命に対する自分の見方を知り、他者との相違について考えます。また地域で生活する母性の対象を守る施策や法律について学びます。				
授業方法	講義、グループワーク				
授業展開	回数	内容	準備等	担当	
	1	母性の概念		西谷沙紀	
	2	母性看護の目標と役割 リプロダクティブヘルス/ライツ			
	3	母子保健の変遷と動向、法律	国民衛生の動向 使用	西谷沙紀	
	4	対象理解 セクシュアリティと多様な性			
	5	父性と家族の役割	グループワーク	西谷沙紀	
	6	母性をめぐる社会問題	新聞スクラップ		
	7	生殖医療における生命倫理と看護倫理	ディバート		
	8	終了試験			
履修条件	母性看護学を取り巻く社会状況は、女性のライフコースの変化から女性の健康と少子化の未来に大きな影響を及ぼしています。社会学の復習をしながら講義に臨んでください。また性に大きく関わるこの領域では、数多くの倫理課題に直面します。よって、胎生期からの命や性について自分自身の考え方を知り、見つめることで母性看護学における生命倫理や看護師としての倫理観を養っていきましょう。				
評価方法	出席、授業への参加状況、課題レポート、終了試験を総合し評価します。				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 医学書院 国民衛生の動向 (財) 厚生統計協会				
参考書					
備考					

## 看護学科

## 講義要綱

科目	母性看護の方法Ⅰ	単位数	1	開講時期	2年前期
授業形態	講義	時間	30	必修区分	必修
担当者	看護師 西谷沙紀(28)、助産師 石川美帆(2)				
授業目的	ウイメンズヘルスを支える看護を理解する。女性の一生をライフサイクルを切り口にライフステージ各期における健康と意思決定を支える看護を学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ライフステージ各期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴、健康と看護について理解する。</li> <li>2. リプロダクティブヘルスケアについて理解する。</li> <li>3. 様々な状況下にある女性の看護について理解する。</li> <li>4. 地域で生活する女性の健康を守るための関わりの実際を知る。</li> <li>5. 協働学習を通し視野を広げながら、多職種連携について学ぶ。</li> </ol>				
授業概要	母性看護学概論では社会の影響を大きく受けながら生活している女性の現状について学びました。今度はその内容をさらに具体化して、1人の女性の一生に着目しながら、各ライフステージにおける看護の視点を学んでいきます。また共に女性を支える立場である助産学科の学生との合同シミュレーション学習を通し、協働についても考えていきましょう。				
授業方法	講義だけではなく、グループワークを行いながら意見交換をしていきます。				
授業展開	回数	内容	準備等	担当	
	1	女性のライフサイクルとウイメンズヘルス		西谷沙紀	
	2	思春期女性の健康と看護①			
	3	思春期女性の健康と看護②			
	4	成熟期女性の健康と看護			
	5	更年期女性の健康と看護	SMI調査		
	6	老年期女性の健康と看護			
	7	地域における健康教育		石川美帆	
	8	遺伝相談		西谷沙紀	
	9	リプロダクティブヘルスケア①	ワーク		
	10	リプロダクティブヘルスケア②			
	11	女性の一生を支える看護(事例学習)			
	12	女性の一生を支える看護(事例展開)	演習準備		
	13	演習(シミュレーション)①	助産学科と協働		
	14	演習(シミュレーション)②			
15	終了試験				
履修条件	女性のライフコースの変化から女性が一生に経験する月経回数は増加し、仕事や日常生活の中で月経周期の不調やトラブル、婦人科疾患のリスクが高まり、それらに悩み受診する女性は後を絶ちません。また晩産化により育児と更年期を同時に迎える女性も増加しています。よってホルモンの働きやライフサイクルにより変化していく対象者の心身の健康状態に気づき、対象者に合わせて考えた看護を実践できるような力を身につけていきましょう。母性看護学概論の知識も復習して臨んでください。				
評価方法	出席、授業への参加状況、課題レポート、終了試験を総合し評価します				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 医学書院				
参考書					
備考					

## 看護学科

## 講義要綱

科目	母性看護の方法Ⅱ	単位数	1	開講時期	2年後期
授業形態	講義	時間	30	必修区分	必修
担当者	医師 立岡和弘 (6) 助産師 伏見有希 (2) 看護師 松本 めぐみ (22)				
授業目的	地域で暮らす女性の産み育てを支える看護を理解する。また対象者の状態を系統的にアセスメントし、看護を実践できるための力を養う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠期の生理と看護について理解する。</li> <li>2. 分娩期の生理と看護について理解する。</li> <li>3. 産褥期の生理と看護について理解する。</li> <li>4. 新生児の生理と看護について理解する。</li> <li>5. 妊産褥婦と新生児に必要な看護技術 (看護師教育の技術項目4. 食事指導28. 新生児の沐浴・清拭 69. 安楽な体位の調整 70安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア) を習得する。</li> </ol>				
授業概要	母性看護の方法Ⅰで学んだ成熟期にある女性のマタニティサイクル期に着目します。医師の講義で妊娠・分娩・産褥各時期における、女性と胎児の生理的变化と経過について基礎的な知識を学習し、その知識を踏まえて各時期に応じた視点とアセスメント、健康を支える看護について担当者から学びます。臨床の現場で実践する高度な技術も演習します。				
授業方法	講義、グループワーク				
授業展開	回数	内容	準備等	担当	
	1	妊娠の生理と経過、身体の変化 妊婦健康診 胎児の性分化と発育		立岡和弘	
	2	分娩の生理と経過			
	3	産褥の生理と経過 身体の変化 産後の健康診査			
	4	妊娠期における看護①		松本めぐみ	
	5	妊娠期における看護②		伏見有希	
	6	妊娠期における看護③		松本めぐみ	
	7	分娩期における看護①			
	8	分娩期における看護②	グループワーク		
	9	産褥期における看護①			
	10	産褥期における看護②			
	11	産褥期における看護③			
	12	妊産褥婦に必要な看護技術(演習)	事前・事後課題あり		
	13	新生児の生理と子宮外適応現象①			
	14	新生児の生理と子宮外適応現象②	事前・事後課題あり		
15	終了試験				
履修条件	<p>核家族、シングルマザーの増加、夫婦であっても父親による育児参加が不十分な状況の中、周囲に援助を求めることができず、さらに医療者、地域からの支援が届かなかった女性は、孤立と疲弊から心身の健康が損なわれていきます。児の健やかな成長のために、家族各々がそれぞれの役割を順調に獲得していくこと、産後も女性がライフコースを自分の意思で選び取りながら「子育て」にも専念できるよう、妊娠・分娩・産後と継続した支援が必要であることを学んでいきましょう。</p> <p>母性看護学概論、母性看護の方法Ⅰの知識を復習して臨んでください。</p>				
評価方法	出席、授業への参加状況、課題レポート、終了試験を総合し評価します				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 医学書院				
参考書					
備考					

## 看護学科

## 講義要綱

科目	母性看護の方法Ⅲ	単位数	1	開講時期	2年後期
授業形態	講義	時間	30	必修区分	必修
担当者	医師 立岡和弘 (6) 助産師 伏見有希 (4) 助産師 西岡恵美 (2) 看護師 西谷沙紀 (18)				
授業目的	産み育てに障害のある人々の特徴や、生活に及ぼす影響を理解し、必要な看護を実践できるための力を養う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠期の異常と看護について理解する。</li> <li>2. 分娩期の異常と看護について理解する。</li> <li>3. 産褥期の異常と看護について理解する。</li> <li>4. 新生児の異常と看護について理解する。</li> <li>5. 妊産褥婦と新生児に必要な看護技術 (看護師教育の技術項目28. 新生児の沐浴・清拭) を習得する。</li> </ol>				
授業概要	母性看護の方法Ⅱで学んだ健康な産み育てから逸脱した女性と胎児(新生児)に着目します。医師の講義は妊娠・分娩・産褥各時期におこりやすい異常と治療について基礎的な知識を学習し、その知識を踏まえて各時期に応じた視点とアセスメント、看護についてを担当者から学びます。				
授業方法	講義、グループワーク				
授業展開	回数	内容	準備等	担当	
	1	妊娠の異常ハイリスク、感染症、多胎		立岡和弘	
	2	分娩の異常 分娩の三要素、胎児機能不全、帝王切開			
	3	産褥の異常 子宮復古不全、精神障害、乳房			
	4	妊娠期の異常と看護		西谷沙紀	
	5	ハイリスク妊婦の看護			
	6	分娩期の異常と看護			
	7	帝王切開術の看護		伏見有希	
	8	産褥期の異常と看護		西谷沙紀	
	9	乳房トラブルの看護			
	10	産後の精神障害の看護		伏見有希	
	11	死産により児を亡くした産婦と家族の看護		西岡恵美	
	12	不妊治療と看護		西谷沙紀	
	13	新生児の異常と看護 (低出生体重児、高ビリルビン血症)			
	14	新生児の清拭、沐浴の実際(演習)			
15	終了試験				
履修条件	母性看護の方法Ⅱで学んだ正常な経過の妊娠・分娩・産後の知識と看護の学習を踏まえ、異常時の看護について学んでいきましょう。 必ず母性看護の方法Ⅱの知識を復習して臨んでください。				
評価方法	出席、授業への参加状況、課題レポート、終了試験を総合し評価します。				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 医学書院				
参考書					
備考					

## 看護学科

## 講義要綱

科目	精神看護の方法Ⅰ	単位数	1	開講時期	2年前期
授業形態	講義	時間	15時間	必修区分	必修
担当者	医師 五條 壽夫(3) 医師 中武 将幸(2) 医師 山川 俊子(4) 医師 池野 浩行(4) 医師 山崎 透(2)				
授業目的	精神障害をもつ人についての理解を深め、患者看護の基本を学ぶ。				
到達目標	入院中心医療から、地域精神医療への転換が図られている。現在、精神障害をもつ人が、社会に参加しながら生き生きと生活するためには、看護師がどのように寄与していけば良いかを一緒に考えていきたい。そのために精神科の基本的知識を理解し、看護に活かせるように身につけることを目標とする。				
授業概要	精神看護学に興味をもって真剣に授業に臨んで下さい。				
授業方法					
授業展開	回数	学習内容	準備等	担当	
	1	総論		中武将幸	
	2	神経症		山川俊子	
	3	気分障害		池野浩行	
	4	症候性精神病		池野浩行	
	5	気分障害		山川俊子	
	6	統合失調症		五條壽夫	
	7	試験		五條壽夫	
	8	精神の発達		山崎 透	
履修条件	教科書をよく読んで臨むこと				
評価方法	100点 筆記試験				
テキスト	エビデンスに基づく精神科看護ケア関連図 改訂版 中央法規出版株式会社系 統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 医学書院				
参考書	国民衛生の動向 厚生労働統計協会 ・補助教材や関連資料も使用するが、各講義において配布する。				
備考					

## 看護学科

## 講義要綱

科目	精神看護の方法Ⅱ	単位数	1	開講時期	2年前期
授業形態	講義・演習	時間	30	必修区分	必修
担当者	保健師 篁 宗一(4) 精神保健福祉士 (4) 小泉 祐貴(4) 森 康太(18)				
授業目的	地域におけるケアと支援、看護者の心のケアの実際について学ぶ				
到達目標	1 病院中心の精神科医療から地域におけるケアへと向かう日本の地域精神保健の動きを実践事例を通して知る。 2 精神障害者が安定した地域生活を送ることができるよう、援助者が心得ておくべき原則を学ぶ。 3 地域生活におけるこころの危機を支える社会制度とその基盤となる考え方を学ぶ。 4 学校・職場など、社会生活の場における精神保健と精神看護を学ぶ。				
授業概要	・ 講義中は集中して聴いてください。尚、疑問があれば、遠慮なく質問してください。 ・ 専門用語が多い為、わからない用語は電子教科書を活用してください。				
授業方法					
授業展開	回数	内容	準備等		
	1	「器」としての地域`精神保健の視点`	森 康太		
	2	学校のメンタルヘルス 活動の実際			
	3	職場におけるメンタルヘルスと精神看護			
	4	看護の実態と予防 心のケアとは何か			
	5	地域生活を支えるための社会資源・サービス、ケアマネジメントと多職種連携	小泉 祐貴		
	6	グループホーム、自立支援、デイケア、就労支援など			
	7	身体疾患を持つ患者の精神保健上の問題	篁 宗一		
	8	リエゾン精神看護とは何か リエゾナーズの役割と活動の実際			
	9	精神障害と法制度	精神保健福祉士		
	10	精神科看護と法律・制度 法律・制度の実際と課題			
	11	回復を支援する	森 康太		
	12	回復の意味とリカバリーのビジョン			
	13	様々な回復のためのプログラム			
	14	看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス	森 康太		
15	終了試験	森 康太			
履修条件					
評価方法	出席状況と授業態度・課題及び終了試験（筆記試験）の結果を総合して評価します。				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 国民衛生の動向	医学書院 医学書院 厚生労働統計協会			
参考書	学生のための精神医学 中井久夫	医歯薬出版			
備考					

## 看護学科

## 講義要綱

科目	精神看護の方法Ⅲ	単位数	1	開講時期	2年後期
授業形態	講義・演習	時間	15時間	必修区分	必修
担当者	看護師 森 康太				
授業目的	こころの健康障害をもつ人の地域生活を支える援助を学ぶ				
到達目標	<p>1 精神科における入院治療の意味を理解し、看護の役割について考える。  2 心の痛みがどのように身体で表現されるかを知り、精神科に多い身体合併症とその看護、精神科で行われるケアの実際について理解する。  3 精神障害者が安定した地域生活を送ることができるためにどのような看護が行われているかを理解する。</p>				
授業概要	<p>精神障害をもっている、可能な限り住み慣れた地域で暮らし続けるために、受診から入院、地域移行に至るまで、患者や家族にどのようなケアや支援が求められるのかを考えます。  精神看護の方法Ⅰ・Ⅱの授業を振り返って臨んでください。</p>				
授業方法					
授業展開	回数	内容			準備等
	1	精神科における看護の役割			森 康太
	2	入院治療の意味と治療的環境			
	3	安全を守る リスクマネジメントと緊急事態への対処			
	4	身体をケアする 精神科の治療や合併症に伴う身体ケア			
	5	回復を助ける 精神科におけるリハビリテーションの実際			
	6	回復を助ける 生活の再構築と地域支援移行支援、多職種連携の実際			
	7	災害とこころのケア 災害時のメンタルヘルスとDPATの活動			
	8	終了試験			
履修条件					
評価方法	筆記試験、演習態度、課題等による総合評価				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ	精神看護の基礎	医学書院		
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ	精神看護の展開	医学書院		
参考書					
備考					

## 看護学科

## 講義要綱

科目	医療安全	単位	1 単位	開講時期	2 年前期
授業形態	講義・グループワーク	時間	1 5 時間	必修区分	必修
担当者	看護師 玉木 恭子(7) 高田千鶴子 (6) 感染管理認定看護師 齋藤 敦子(2)				
授業目的	医療・看護の安全を保つこと、事故防止の視点から対象の安全について学ぶ				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療事故に対する理解を深め、事故防止の視点から医療安全の知識・技術を学ぶ。</li> <li>・感染対策に対する理解を深め、根拠法や現状の視点から医療安全の知識・技術を学ぶ。</li> </ul>				
授業概要	・医療安全管理室の看護師、感染管理認定看護師から、看護の対象である患者、そして、患者の安全を保つ為に必要な医療の安全について学びます。				
授業方法	講義・グループワーク				
授業展開	回数	内容	準備等		
	1	医療安全と看護の責務 医療安全施策と医療の質の評価	高田 千鶴子		
	2	事故発生のメカニズムと防止対策 ヒューマンエラー・ Medikation ンエラー			
	3	医療機関における安全対策 医療事故後の対応			
	4	感染の危険を伴う病原体への暴露と 防止 院内感染の実際、感染症法など	齋藤 敦子		
	5	医療安全と実際の事故、医療安全に かかわる重要語句	玉木 恭子		
	6	事例から医療安全を考える ヒヤリハット事例での要因分析 (KYT)			
	7	KYTの実際 イラストKYTの実際と発表			
8	筆記試験				
履修条件	新聞やその他の情報ツールから医療事故やインシデントに関する記事を読み、ピックアップしておいてください。 看護の方法で学んだ「感染防止の技術」「安全確保の技術」「与薬の技術」「検査の技術」について安全を視点に振り返りをしてください。				
評価方法	出席状況 筆記試験配点：90点 グループワーク配点10点				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践 医療安全		医学書院		
参考書	ナースのための危険予知トレーニングテキスト			メディカ出版	
備考	60:感染性廃棄物の取り扱い(講義) 62:針刺し事故・事故後の対応(講義) 63:インシデント・アクシデントの速やかな報告(講義)				